

第6次総合計画策定に係る【東部（上）】地区懇談会 会議録

開催日・出席者等

開催日時 令和2年8月6日（木） 19時00分から20時30分まで
場 所 和合会館 3階ホール
出席者 竹節町長、議会事務局長、消防課長、総務課長、企画係長、企画係員

会議事項・懇談内容

- 1 開会（消防課長）
- 2 挨拶（竹節町長）
- 3 第6次山ノ内町総合計画について（企画係員）

懇 談

【発言】 懇談会参加者意見

【回答】 役場出席者意見

【発言1】

山ノ内町という部分を他の町に変えても、全部このまま使える内容。定住するように言っているが、この地域の良い所が何も書かれていない。

少子化の話だが、根本的に子育てが大変だから、自分の人生が大事だから、子どもを持たないと言っている人が多いんだと思うが、そういう人間は死んでいくときにひとりだし、子どもがいないんだから、墓に入れてくれる人もいないかもしれない。現在は、教育自体がアメリカの方が良いみたいな感じになっていて、パワハラだのセクハラだのということになってしまう。

何千年と日本が続いて持っている良いことが何かというと仕事。西洋の文化、キリスト教だと罪を犯しているから仕事があるという考え方で、だからバケーションなんかもあるわけだが、日本は昔から腕に職を持つということで、仕事は決して悪ではない。8時間だの40時間だの過労死だのということは全然別の話として、そういう人たちが長じては人間国宝みたいになる人がいて、うちみたいな旅館でも板前の世界で親方といって、教えてもらった人にはずっとついていくような形で、人間は適材適所で、リーダーとして力を発揮する人もいれば裏方で頑張る人もいて、それがひとつの組織をつくっていく。企業でも地域でも昔からあることで、それが今は「ひとりが」みたいな形になるから少子化になっている。昔から言われている言葉は真実だから何千年も続いているわけで、昨日や今日出てきた言葉とは重みが違うが、教育でも何でも、どこでもそういったことを教えてくれない。「虎は死して皮を残し人は死して名を残す」という言葉のとおり、名を残すには名を継い

でくれる家族がいなければいけないのだから。そこらへんを根本的に考えないと、こんな名前を変えればどこでも通用するようなものを作るのは、正直お金の無駄遣いだというのが感想。

【回答 1】

どこの市町村でも似たような市町村であれば似たような総合計画ができるということは、反論するものではない。ただ今回お示ししているのは、行政としてやらなければならない部分を記載しているもので、山ノ内町の特徴を今の懇談会の段階ではまだ入れ込めていないのが現状とご理解いただきたい。9ページに書かれている白抜き部分に基本計画の各項目を示しているが、これは役場でやらなければいけないと思われるものを全て網羅したとご説明しましたが、ここに肉付けをしていく。それが総合計画の前期5カ年の基本計画になるわけですが、そこには山ノ内町らしさ、他の市町村と同じではない内容を入れていく。最終的には山ノ内町らしさが入った計画にしたいというのが現在の状況。ご意見をいただく中で、基本計画に取り入れさせていただいて、山ノ内らしさを出していければと思っていますので、ご理解いただきご意見いただければと思う。

もう一点、結婚される人の数が減ってきている現状がある。様々な個人的な事情があるのだと思うが、その辺は教育の中で、どうして結婚しなければならないのか、どうして子どもが必要なのかという教育をしていく、また、現代社会のそういう方向が、少しでも子どもが必要で結婚が必要という方向に向かっていかないと、なかなか難しいと感じている。婚活や子育ての問題に町として支援をしていきたいと考えている。

【発言 2】

11ページの「この課題をどう解決していくか」の一番下、「活力ある魅力的な地域づくり（コミュニティの活性化、健康寿命の延伸、災害に強い町）」について、どう解決していくか町では何か考えているか。

【回答 2】

こういったものを計画の中に取り入れるように考えているところで、現状では問題を洗い出した段階で、地域のコミュニティについては改めて大切なことだと感じている。この部分については、現在組み上げているところという回答になる。地域コミュニティの強化とか、激甚災害が増えている中で、危機管理を根底に災害に強い町づくりを行っていく必要があると感じている。

計画については皆さまのご意見を頂戴しながら組み込んでいきたいと思っていますので、現状ではまだ答えになりませんが、ご意見などお願いしたい。

【発言 2-2】

国民健康保険に入らない若い人がたくさんいるが、今の20代30代「活力ある魅力的な地域づくり」を考えていると思うか。山ノ内町に住みたいと思っていると思うか。

【回答 2 - 2】

現状については、アンケートや懇談会でご意見をいただく中での印象しかないが、国民健康保険に入らないということも話としては聞いている中で、教育も含めて全体としてちゃんと対策しなくてはと思っている。

現状で若者や皆さんの考えは十分に把握できているわけではないが、おっしゃられる通り大切なことだと考えている。

【質問 3】

11 ページのこの課題をどう解決していくか「移住・定住対策（町外から人を呼ぶ、若者が住みたいと思えるまちづくり）」について、山ノ内町は春から秋までに関しては果樹栽培が盛んになっている。その中で、空き家の問題、こちらへ住みたいという人がいても住む場所がないという場合に、町が空き家を斡旋して、若い世帯をどう取り込むのか、年を召された方でもよいが、他地域から山ノ内町へ住んでいただくような施策も必要なのではないかと思う。春から秋までは果樹栽培のお手伝いをしていただいて、冬に関してはスキー場やホテルでの仕事、お客様を相手にしなくても施設管理で働くような仕事も想定しながら、産業や業種などいくつかを合体させて、定住を進めていただければという意見だが、どのように考えているか。

【回答 3】

企画係では移住定住推進室兼務しており、移住定住施策についても担当している。移住定住推進室には地域おこし協力隊が在籍しており、その方は神戸からこちらへ移住してきた。町の協力隊として、今年はコロナの関係でなかなか出ていけないが、首都圏や関西圏で呼び込みを行っている。須賀川地区には移住体験住宅があり、町外の一般の方に応募いただき、1週間から1月近く町を体験しながら移住や定住を検討いただくというメニューもあります。昨年については、その体験住宅からの移住者はなかったが、一昨年には1件の実績がある。また、移住体験ツアーというものも協力隊を中心に行っており、ツアーをとおして移住された方もいらっしゃる。現状は大きな数字ではないが、移住の取り組みを行う中で少しずつ実績があがっている。

ご意見のあった内容、農業を中心に移住してきた方が冬の間の仕事を変えるという提案もある中で、今年度コロナの関係で観光業と農業が組みまして、農家さんのお手伝いに旅館の方が入られたという話をお聞きしますので、そういった取り組みの可能性はあるのかなと感じている。また、農業をやりたいという移住の方もいらっしゃいましたし、今年の春、農林課の地域おこし協力隊が農業実習をしながら2年半の任期を終えて、独り立ちして、農家として頑張っていくという実績もありますので、観光業や農業の振興も含めて取り組みを進めていきたいと感じている。ご意見は計画の中に取り込んでいきたいと思う。

【質問 4】

第6次ということは第1次～第5次までであったと思うが、過去の計画の良いところと悪いところを教えていただければと思う。

【回答 4】

昨年、第6次総合計画の作成を始めるにあたり、アンケートを皆さんからいただくとともに、第5次総合計画後期計画の基本計画の部分に具体的な施策の方針を細かく記載しておりますが、その部分の検証を行い、各係で目標に対して達成度は何%か進捗率は何%か、どのくらいできたかという評価を行っている。内容については膨大な量になるので今回はお示しできないが、町のホームページに全ての評価が出ていたり、総務課にも全文置いてあるので、ぜひご覧になっていただきたいと思う。策定にあたり、まず前の計画の検証からスタートしており、各係担当者が全ての業務の評価を行っている。その中で特に第6次を作るにあたって重要だという部分を、第5次の結果、第6次に向けて必要か必要でないか、継続するのかわ変えていくのか、という部分を特に評価している。そういった中で全体が細かく評価されていますので、どの部分ができているか、いないか、というのは一言では難しいところではあるが、一部の施策では全体的に評価が低く、達成度が低くて一から考え直しなさい、というようなことにもなっていますので、こういった部分については全体を組み立て施策自体を作り直すというような方向で基本計画をつくっている状況。

【質問 5】

県内で毎年600人くらいずつの小中学生が減少しているという状況。言い換えれば、大きな学校が毎年1つなくなっているということ。これが10年続いていて、この先10年も続くという見込みになっていて、学校も再編や消滅をしている。その中で、山ノ内も小学校の合併の話があったが、高校も中野、須坂、飯山もどんどん減ってきている。学校がなくなってしまうと子どもたちが教育を受ける場がなくなってしまう。中学校は義務教育なのでさすがに町からなくならないと思うが、それでも学校間で学習の差や設備の差が出てきてしまうだろう。そういった部分を町ではどう考えているか。

【回答 5】

教育委員会が出席していないので具体的な部分は申し上げられないが、いずれにしても、少子化が進んでいるということが一番の根底にあるということなので、子どもを増やすにはどうしたらいいのかというのが重要なポイントになっていくと思っている。

ちなみに現在の教育委員会での町内の学校の状況だが、北小学校と西小学校が統合し、その後、山ノ内中学校の敷地内に3小統合の小学校を増設するという動きで動いていたわけだが、中学校の敷地の中では面積的な問題、グラウンドと体育館の問題、学級数の問題があり断念したというのはご承知かと思う。その後どうするののだが、将来統一小学校という方針は基本的に変えない中で、平成34年度の中学校の敷地内に統合というのは断念ということになっている。明日、総合教育会議が開催される予定で、その中で準備委員会等を設置して検討していく方向のようなので、明日が再出発ということになるかと思う。出生数が年間50～60人が続いたときに再度検討を進めて統合に向けて話を進めることになっているので、今まさに50～60人の段階になってきているということなので、検討を開始するというのが今の状況。教育振興基本計画の中で、その辺のことを謳っていくと思いま

すので、今日は具体的なことは申し上げられませんが、ご容赦いただきたいと思う。

【質問 5-2】

学べる場所がないと、若い人たちが子どもを産んで定住してというのも難しいのではないかと思う。今地域にいる人たちも教育を受けられる場所への転出も増えてしまうと思うので、ぜひ考えていただきたいと思う。

別府等の例では、大学の若者が地域の行事等にも参加して、そこから定住するという例が増えていくと聞く。この地域は観光と農業ということで、大学の観光科であったり、農業のキャンパスを誘致するようなことも考えてもらえればと提案する。

【回答 5-2】

ご提案いただきましたとおり、大学のある町はすごく強いというのは思っているところ。南箕輪では信大の農学部がある関係で人口が増えたりしているが、大学の誘致となるとハードルが高いところではある。高校に行くのをきっかけに山ノ内を離れるということを実際に聞いたりしているが、その中でどうやって山ノ内町に残っていただくかというのは課題であると認識しているが、現状はどうしたものか考えているところというのが正直なところ。例えば5年前からだが、長野電鉄での通学にお金がかかって大変だということで、定期券の補助であったりとか、山ノ内町に住みながら他市町村の高校に通えるようにということで始めている。私の希望としても山ノ内町に高校や大学ができるということは間違いなく人口減少や少子化に効くというのはわかるが、他市町村も同様の認識をもっている中で、ハードルが高いな～というのが現状の感覚。

【質問 6】

11 ページの合計特殊出生率について、人口に歯止めをかけるために目標値を立てていると思うが、ここ数年で定住や転入の若者はどのくらい入ってきているのか。分母が増えなければ出生率は増えないのではないか。元々居る若い人は出ていく方が多いということで、残った人と転入してきた方合わせて出生率を算出できると思うが。

【回答 6】

出生率について、現在の 1.35 から目標の 2.07 にあげる、ベースの考え方ということか。

【質問 6-2】

そもそも、こういう目標値を立てたとしても、理想でしか語られていないので現実が見えていないのでは。

【回答 6-2】

転入転出の実数の話とは別になるが、合計特殊出生率ですので、産む年齢の方が 1,000 人居て、500 人ずつ結婚して 2 人が 2 人のお子さんを産めば±0 という考え方。ベースの人数が 1,000 人でも 10,000 人でも 2.07 という率は目標にしていかなければいけない部分。

11 ページのグラフで実際 2.07 になっていて、転入と転出が±0 になっているのに、なぜ人口が減っているのかと言うと、自然動態、亡くなっていく方の増減は予測できなく、かつ若い人より大人数いるということ。

【質問 6－3】

そもそも、数年前の信濃毎日新聞の記事で 20 数年後に山ノ内町は消滅都市だと報じられた。とすれば、人口の減少に歯止めがかからない状態で、いかにして出生率を保っていかなければならないとなると、若い人の定住とか雇用とかが課題が出てくると思うが、計画の初期段階なので何とも言えないが、あまりにも漠然としすぎて、何をどうすればいいのかが見えてこない。

【回答 6－3】

まず、合計特殊出生率をこういった目標に定めた理由が 2 点あります。

1 点目は国の出生率は、町の出生率 1.35 よりそもそもが高い。国としては人口を減らさないために、もっと早い段階で 2.07 まであげましょうという目標を掲げている。ただ町の現状は 1.35 と国平均より低いので、一気に 2.07 まで上げるのは無理があるだろうということで、国の目標と町の状態を勘案する中で、増やしていく目標を立てている。

2 点目は国の調査で若い男女に行ったアンケートで、結婚はいつしたいか、子どもは何人欲しいか、ただし、お金とか仕事とか自分がどんな状態に置かれているか関係なく回答してください、というもの。結果、算定された出生率は 1.84。つまり、いろいろな支援があって、出会いがあって、経済的に余裕があれば、国民希望出生率は 1.84 ということになる。これは年々上がっていくのではないかとされているが、この 2 点を勘案して目標数値を立てている。

具体的に見えないというご意見をいただきましたが、現状の段階では基本構想という部分で、かなりザックリした内容かと思う。各係長や課長が構想を作る中で、10 年後こうしたいという希望の部分が多く入っている。未来の希望をつくった中で、どういったことをやっていったら、その希望、目標に到達できるのかという部分が基本計画になる。夢よりも、今度は現実の部分が多くなってくる。そこに到達するための事業も入ってくる。さらにより具体的なのは実施計画で、これは毎年の予算のベースになるものなので、それを執行しなければならないという非常に現実的なもの。10 年後を見ながら、この 3 年で何をやらなければならないかという一番現実的なベースとなる。本日お示しした資料では、ぼやっとしていると思われても仕方ないと思っている。実際にこういう目標を掲げた中で、具体的にこういうことをやったらどうかという意見をいただくと、我々としては有難く、大変勉強になる。そういったことで、ご意見をいただければと思う。

4 その他

SUGUメール登録のお願い（総務課長）

- ▶ 質疑等特になし

5 閉会（消防課長）

以上